

コラム

編集・発行：金浦区自治会

発行日：2021. 9. 6

金浦自然との共生シリーズ⑧

文責：波多野 哲哉



みなさんこの虫、みたことがありますか？そう、「たまむし」ですね。正式にはヤマトタマムシという名前ですが、奈良県の法隆寺が所有する「玉虫厨子（たまむしのずし）」という仏教工芸品に使われていることで有名です。7世紀（西暦600年代）の飛鳥時代に作られたと言われていますが、アワビなどの貝殻を利用した螺鈿（らでん）など、むかしの人は美しいものをうまく利用して装飾を施していたんですね。ほかにも「死んだタマムシをタンスに入れておいたらお金がたまる」「幸せになれる」など、いろんな言い伝えがあることでも有名ですね。さて、このタマムシ、ハネの色が実は「透明」だということはあまり知られていません。どういうことかということ、透明のうすいフィルムが100枚ほど重なっている構造で、これに光が当たって屈折すること（プリズム現象）で人間の目には緑や赤のキンピカ色に見える・・・というからくりです。これは虹といっしょの原理です。このような色の仕組みを「構造色」といいます。自然の中で美しい色の正体はこの構造色が結構多いのはおどろきです。